

# ラオスのこども通信

48号

2010年4月発行

発行 特定非営利活動法人 ラオスのこども 〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12, 303 TEL/FAX 03-3755-1603

## 特集 ラオスの社会環境が急激に変化するなかで 子どもの「居場所」と「自己表現の機会」を....2

プロジェクトの動き

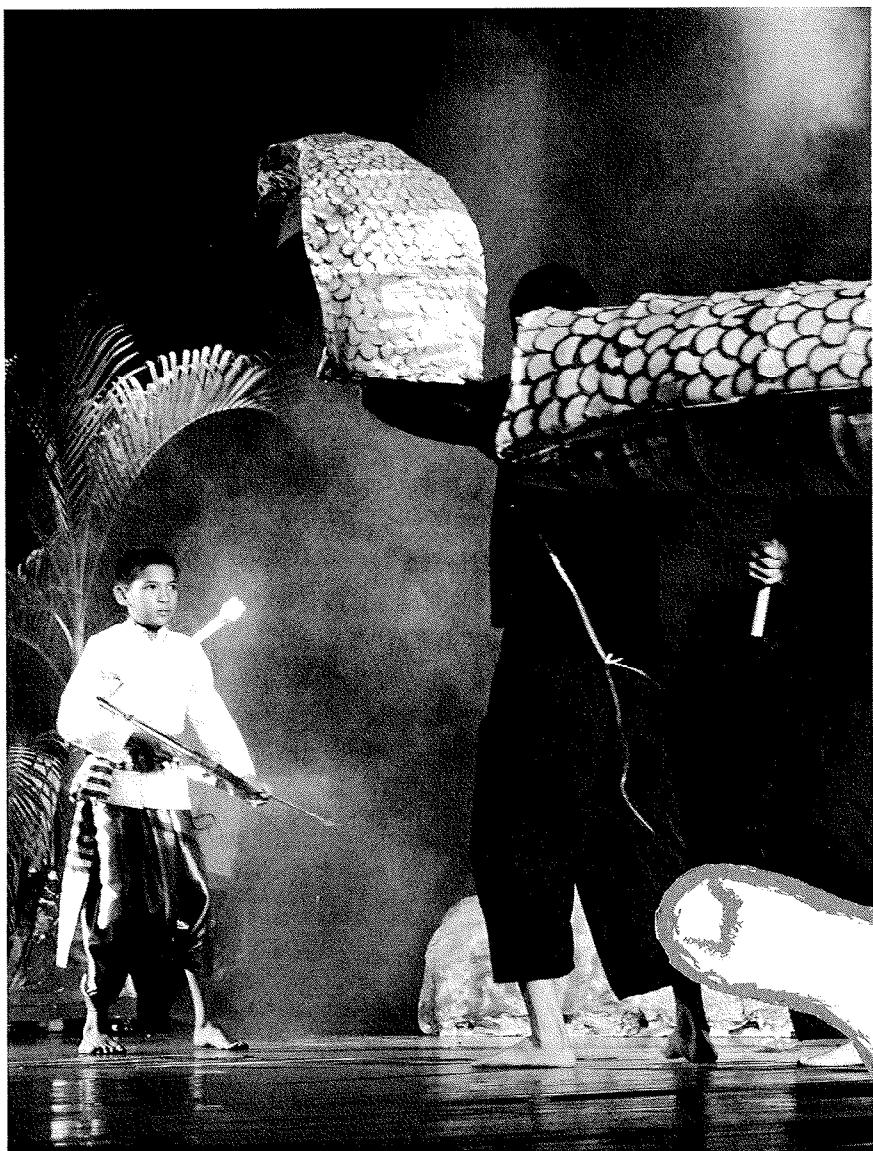
視察報告 現場でうかびあがる読書の普及のありかた....4

レポート インド「児童図書館国際会議～本の文化を築く」に参加して....5

国内の活動/イベント.....6

国内の活動/事務局より.....7

寄付者・協力者のみなさん .....8



文化会館でシンサイを演じる

## シンサイ

当会が支援するヴィエンチャ都  
子ども教育開発センター（CEC）  
の子どもたちが演じる「シンサイ」。  
ラオスの国民文学として  
人々に愛されてきた「シンサイ」  
を詩の朗読とともに演劇にして練習  
を重ね、発表をしてきました。  
2010年6月には東京での公演を予定  
しています。

特定非営利活動法人 ラオスのこども  
は、子ども自らが学ぶ力を伸ばしていく  
ために、ラオスで、「絵本、紙芝居などの  
出版」「図書室」「遊び楽しみ学べる場」  
などの支援を行っています。

## ラオスの社会環境が急激に変化するなかで 子どもの「居場所」と「自己表現の機会」を

消費社会へ進む速さはまさに駆け足といえるラオス。 そうしたなかで、当会は子どもの「居場所」「自己表現の機会」となる地域施設、子ども文化センター／子ども教育開発センターなどを各地で支援しています。 最近のラオスの様子と各センターの活動をお伝えします。

- 携帯ショップは繁盛。 書店はなし  
友だちと連れ立って携帯ショップを覗く。 日本で見かけるこんな風景をラオスの町でも目にするようになりました。 北部のルアンナムターで見かけたのは、学校帰りの男の子たちが店で音楽（違法コピーです）を携帯電話にとりこむ姿でした。  
ヴィエンチャンの小学生に「今いちばん欲しい物は何？」と聞いたところ、プレーステーション（コンピュータゲーム機）、自転車、コンピュータ（音楽を聴きたいので）といった声が返ってきました。 今や日本と変わらない、という印象です。

一方、ラオスの小学校では教科書が行き渡らず、高学年になつてもたどたどしい読み方をする子どもが多く、先生でもまとまつた文章を書くのは困難な人が少なくないという現状があります。 また当会などNGOによる学校への図書普及の活動が行われていますが、いまだに首都を除いて書店が見当たりません。



携帯電話に音楽をとりこむ店に立ち寄る中学生  
(ルアンナムター県)

- メディアの影響を直接受ける子どもたち  
本がない、本を買う人がほとんどいない、という状態が続くラオスですが、若者向けの雑誌が登場しました。 誌面は広告に彩られていますが、ファッションや星占いなどのページに女の子たちは目をとめています。 時代の変化を感じさせる光景です。

当会ラオス事務所のスタッフはテレビやコンピュータゲームの子どもへの影響を心配しています。 そのひとり、スックパンサー（p5もご覧ください）は日本のアニメのファンですが、「ぼくはちゃんと見るものを選ぶ

ことができる。 でも子どもたちは影響をもろに受ける」と問題点を指摘します。

ヴィエンチャン県のとなり、ボリカムサイ県のナクア小学校（p4をご覧ください）のサンコム校長先生は「都会でもないこの地域で最近、若者に麻薬が広がっています」と、時代の変化の中で若者の行き場のなさを心配します。



おしゃれな雑誌が登場！（子ども教育開発センター図書室）

- 子どもたちが伸び伸び楽しく活動できる場を  
当会が支援する子ども文化センターなど小中学生向けの地域施設では、子どもたちが伸びのび楽しく活動でき、仲間とともに成長していくことをめざす様々なプログラムを実施しています。

その一つ、ヴィエンチャン都のノンセンチャン子ども開発センターでは、子どもの権利を演劇仕立てにしてアピールするプログラムが行われています。 叔母に



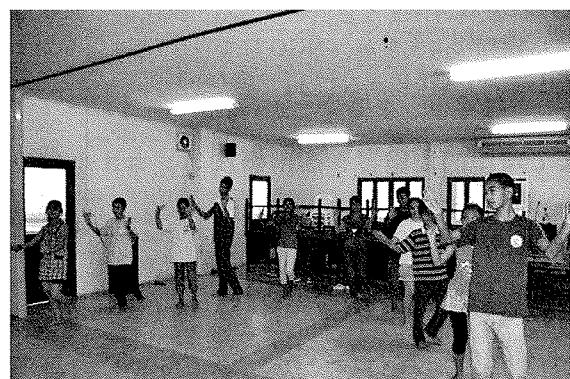
「この子を学校に行かせてあげて」と大人に訴えかける場面  
(ノンセンチャン子ども開発センター)

あづけられ、家事労働にしばられている女の子を友だちが団結して学校に行けるようにするというストーリーです。大人たちはこれをどう見るのか。「お年寄りは自分の子どものころが重なって涙を流します」と主催者のパンナリーさん。子どもたちは自分たちの活動に手ごたえを感じている様子です。

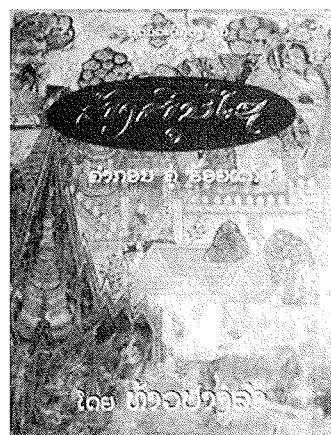
**●古典の豊かさを子どもたちが表現する機会を**  
ヴィエンチャン都子ども教育開発センター(以下 CEC)では、ラオスの古典文学である英雄伝のサンシンサイの詩の朗読と踊りをふんだんに取り入れた演劇をプログラムにしています。

サンシンサイはインドのラーマヤーナをルーツにしながら、ラオスでは仏教文学として17世紀に書かれた作品です。その豊かな表現がラオスの多様な美しさを描き出し、人々を魅了してきました。サンシンサイの踊りが大好きという中学3年生のミナーさんは「ラオス独特のものですし、自分が踊れるのがうれしい」と言います。

当会では、この『サンシンサイ』を2010年3月に出版しました。



サンシンサイの練習をする子どもたち(子ども教育開発センター)



会が出版した  
『サンシンサイ』

### ●元気いっぱいの歌声を響かせて

コーラスも CEC の子どもたちの人気のプログラムです。小学1年生から中学4年生(ラオスでは小学校は5年制。中学校は3年制から4年制に移行中です)



コーラスの練習。日本の歌もレパートリーに  
(子ども教育開発センター)

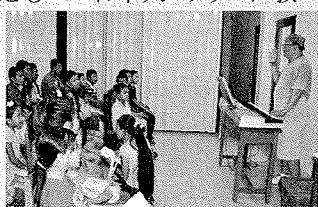
まで参加して、ラオスの歌のほか、「ウィ・アー・ザ・ワールド」や日本の「花」などもレパートリーです。「洗練されてはいないかもしれないけれど、今どきの日本の子にはない力強さがあって、それが私たちの心に響きます」と元音楽教諭の東京事務所スタッフ、深山知美。

ラオスの学校教育では音楽はほとんど行われず、クラブ活動もありません。こうした活動を通じて、子どもたちは感性を豊かにし、自信をつけ、友情を深めています。

**ラオスの子どもたちが来日。  
大田区の子どもたちと交流します。**

ヴィエンチャン都 CEC の子どもたちは東京都大田区の大田国際交流週間2010(6月19~26日開催)にあわせて来日します。シンサイの上演とコーラスとともに、日本の子どもたちとの交流、ホームステイなどを予定しています。

引率するシンサイグループの指導者のヴィッキーさんは、「日本の歌の“手紙”を聴いてとても感動しました。“ラオスの子ども”的日本人スタッフに教わって、今、子どもたちと練習中です。楽しみにしていてください」と、意気込みを語ります。



シンサイグループを指導するヴィッキーさん

## 視察報告

### 現場でうかびあがる読書の普及のありかた

授業に絵本など副読本を取り入れ、子どもの学ぶ力を高めることをめざす研修（学校図書室教員対象図書活用セミナー）が2009年に行われました。その後、先生たちがどのように授業を行っているのか、2010年3月～4月に各学校を訪問しました。以下、ボリカムサイ県の小学校について報告します。

#### 先生の本音●ナクア小学校（パッカディン郡）

『ソンポーンと5羽のあひる』という絵本を使った4年生の授業。担任のポンサイ先生は教員4年目、26歳です。

先生「表紙に何が書いてあるかな？」

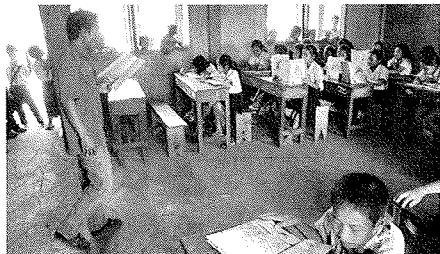
子どもたち「あひる！」

先生「何羽？」

子どもたち「5羽！」

元気に授業が始まります。

ところが、その後は先生が音読みし、子どもたちの出番がありません。当会ラオス事務所長のダラーが「子どもに読ませて」とアドバイス。子どもは、単語ごとに切って読みます。そこで、



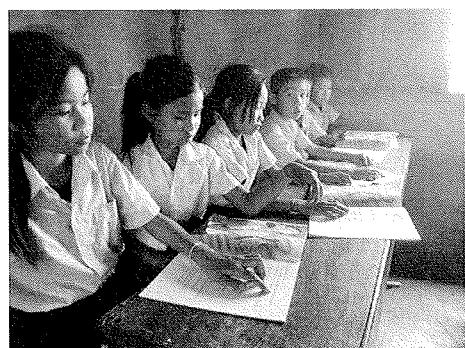
副読本を使った授業

ダラーは文をひとまとまりに読んでみせ、子どもたちも練習します。

この物語は、あひるを飼っていた男の子が遊びに行っていたときに1羽が逃げて車にひかれてしまい、車を運転していた人が自分の息子が飼っているあひるをその子にあげるという話です。

読み終えて、内容について先生が子どもに問いかれます。物語のやまは、あひるをもらった男の子が飼い主の男の子に返しに行くところにあります。ところが先生の子どもたちへの問い合わせは、なかなかそこに向かいません。

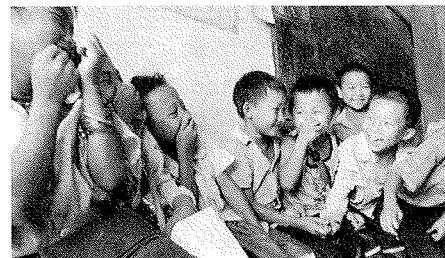
授業後、先生に聞き取りをしたところ、この物語を授業に使うのは初めてで、他の本も自分ではあまり読んでいない様子です。最後に、「図書の仕事というか、小学校教員は、男の仕事じゃないと思って・・」とぼろっと本音を聞かせてくれました。私たちの活動は一方的になつていなかつたかと思わされた一言でした。



ほとんどの子が、指で文字を追いながら読んでいる

#### 言葉の壁●トンナミー小学校（パッカディン郡）

訪れたとたん、子どもたちがわっと集まってきて、元気にはじけかえっていたのがトンナミー小学校です。ここは少数民族のモン族の人々が多く暮らす地域です。子どもたちは友だちとじやれあうのが楽しくてしょうがないという感じでした。



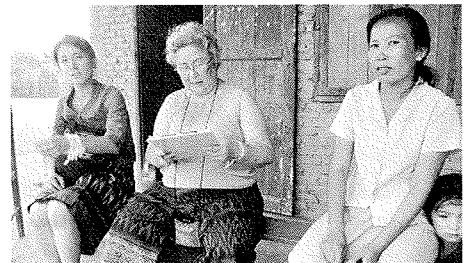
楽しそうにおしゃべりする子どもたち

さて、授業の様子を見ると、先生の問い合わせに反応するのは、ほとんどがラオ族の子どもたち。授業はラオ語で行われ、それが理解できないモン族の子どもたちが多くいるのです。となりの子に、先生の問い合わせを訳して教えてあげる場面も見られますが、いつもいつもというわけにはいきません。

民族ごとに特有の言葉をもつラオスでは、教授法の研修以前に言葉の問題がありますが、NGOにできることは限界があり、なかなかそれを乗り越えることはできません。

#### 各クラスで積極的に図書を活用●ムアンカオ小学校（ボリカン郡）

授業に副読本を取り入れるように、同じ本を30冊ずつ各校に配布したのがこのプロジェクトです。



コーンサバン先生(右)に聞き取りをするダラー

ムアンカオ小学校では、研修を受けたコーンサバン先生が、他の先生にその授業の仕方を伝え、各クラスで本を回して、積極的に授業に図書を活用しています。まさに私たちがねらったことが行われています。

「本を子どもに持たせることで、子どもたちは集中力を高めています」と話すコーンサバン先生は5年生の担任です。研修でサンシンサイの詩に触れて、学校に持ち帰り、子どもたちに朗読の指導をしています。子どもたちも楽しそうに朗読しています。

さまざまな課題と成果を見た視察となりました。現場の先生にとって、より自発的に、子どもと本を結びつけられる図書活動を進めていきたいという思いを新たにしました。

# インド「児童図書館国際会議～本の文化を築く」に参加して

スックパンサー（ラオス事務所スタッフ）

2010年2月4～6日にインドのニューデリーで開かれたIBBY（国際児童図書評議会）インド支部（AWIC 児童図書作家・イラストレーター協会）主催の「児童図書館国際会議～本の文化を築く」にチャンタソン共同代表と私が参加し、発表を行いました。

各国の読書推進活動の発表が行われ、その多くは私たちがラオスで実施しているものでしたが、強く印象づけられた活動が2つありました。ひとつは津波の被害にあった子どもたちを癒す図書活動を行っているインドネシアのボナンタ財団です。ムルチ・ボナンタ代表の「津波で家族と住むところをなくした子どもたちが食べ物や薬よりも求めているものがあります。生きていくための理由と力です。それを本とおはなしの語りが与えてくれるのです」というお話を私にとって読書推進のまったく新しい考え方でした。

もうひとつはポーランド国立図書館のモニカ・ショズナスカさんの発表です。社会の変化で失われつつある親子の絆を取り戻すため、国民運動として毎日1時間子どもに読み聞かせを、

特に父親がすることを、テレビや地域の図書イベントを通じて進めていることです。

また、モンゴルのジャンバ・ダシュドンドグさんは出版した



本を自らラクダに積んで売り、砂漠の向こうの子どもたちにも届けているとのことでした。

ラオスで読書が国民的課題として関心が高まるときがいつ訪れるのか、私にはわかりませんが、親子の魔法の薬となるような図書普及活動を進めたいという思いを新たにしたインドでの3日間でした。

## ラオス事務所インターンにきました

「『こういう村にしたい』と考えられる子どもたちになってほしい」

カムフーさん（ラオス国立大学生）

カムフーさんは、会が本を小学校などに届けるときに同行して、子どもたちに読み聞かせをしたり、先生たちへの聞き取り調査などの活動に参加しています。

—大学では何を学んでいますか？

「社会開発です。村の人は働いても働いても暮らしが楽になりません。以前は、山などでいろいろなものが採れたのに、最近はすっかり減っています。村の生活を向上させるにはどうしたらいいのかを学んでいます」

森はラオスの人にとって食べ物も生活に必要なものはなんでも手に入る「よろず市場」です。しかし近年はゴムやパームやしの農園が広がるなど、地域の人々の暮らしに影響を及ぼしています。今年（2010年）はメコン川の水位低下が甚だしく、農業被害や船の座礁などが起こっています。上流のダムが原因かとの声が高まり、4月5日には「メコン川流域国首脳会議」が開かれました。

—そういう問題意識と会の活動の接点は、どこに？

「子どもたちが本を読むようになることで、村のいい発展を自分たちで考えることができるようになると思います」

—カムフーさんと本との出会いはいつ？

「父が教員をしていて、学校に配付された本を保管のために持ち帰っていました。ぼくは小学生で難しい本は読めません

でした」

—通っている学校に図書室はあった？

「中学校にありました」

—図書担当の先生は、生徒の読書に熱意を持っていました？

「そうでもないです。もとは技術の先生で、年をとっていて若い先生に交代して、図書室担当に回された様子でした。でも、ちゃんと図書室は開けてくれたので、ぼくらは本が読めました」

—これからも、がんばってくださいね。どうもありがとうございます。



# 国内の活動・イベント

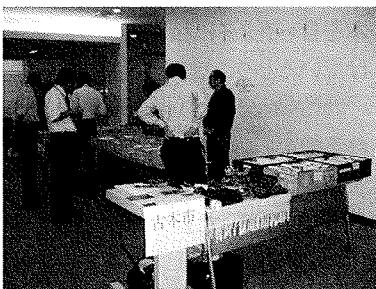
2009年11月～2010年3月

## イベント

### ●富士ゼロックス株式会社 古本市

11/5・6日 富士ゼロックス本社

社内向け古本市のイベントで、ラオスの手工芸品やカレンダー販売のブースを出店。お昼休みなどに多くの社員の方が訪れ、当会のブースにも立ち寄ってもらいました。「年末にラオスに行く計画をしていたけれど、航空券が取れずあきらめたところです。カレンダーでラオスのこどもたちを身近に感じます」とカレンダーを購入してくださった方がとても印象的でした。2日間の古本市の売上は、当会にご寄付いただきました。社員のみなさん、ありがとうございました。



### ●OTA ふれあいフェスタ 2009

11/7・8 平和島

フェスタの目玉、国際交流ストリートに今年も参加。「国際交流クイズラリー」では食べ物に関するクイズを各団体が出題。参加者はシートを持って14団体をまわり、3択クイズに答えていきます。「ラオスでお祝いの時に必ず食べる料理はどれでしょうか？ ①ラーブ②シープ③キープ」当会は、クイズの提供と温かいナムワン（カボチャやさつまいも、タピオカ、ココナツミルクの甘いデザート）、コーヒー、桑茶、織物などを販売しました。天候に恵まれ、各国料理を食べながら子どもから大人までクイズを楽しんでいました。（答は①）



### ●中学生が東京事務所を訪問

11/12 山形県新庄市立新庄中学校

12/3 武蔵村山市立第一中学校

修学旅行の班別学習や総合学習の時間の職場訪問として当会を訪問。活動紹介、事前質問への回答、ラオス語絵本プロジェクトの体験などを行います。ラオスの子どもたちが本を読んでいる姿を想像しながらのラオス語翻訳シート貼りは、いちばん印象に残った様子でした。

### ●「ラオスの織物展～布に込められる夢～」

12/9～15 (株)コトブキ D.I. センター

今年の6月に引き続き、(株)コトブキのご厚意により会場を提供いただき、織物展を開催しました。フォトジャーナリスト押原譲さんのカレンダー写真展を同時開催し、会場にはラオスのこどもたちの笑顔がいっぱいに広がりました。「伝統的な文様に意味があることを知り、織物を見るのがもっと楽しくなりました」「会場の飾り付けなどが明るい雰囲気でした」など、嬉しい声をたくさんいただきました。もっともっとたくさんの方にラオスと織物の魅力を知っていただけたらと思っています。



### ●第1回 ラオスのこども勉強会

見たことも聞いたこともないラオスの話（その1）

「すみからすみまでラオスを旅して」

2/13 JICA 地球ひろば

ラオス全土を歩き、人々を写真に収めてきたフォトグラファー川口正志さんによる講演会を開催。川旅の魅力や外部者がめったに訪れないサイソンブン地区など多様なラオスの表情と子どもたちの姿、旅の技などを写真とともに語っていました。50名を超える参加者があり、知られるラオスの話や写真を十分満喫していただけたようです。



### ●福岡での講演会

3/8 福岡西ロータリークラブ

ホテルオークラ福岡で行われた福岡西ロータリークラブ定例会でラオスのこどもの活動を紹介しました。

3/9 NGO 福岡ネットワーク月例企画「クラブ FUNN」

福岡 NPO 共同事務所

手作りのタイ料理を食べながらの月例会で当会の活動を紹介。アットホームな雰囲気の中、スタッフやボランティアの方々の熱心さが伝わってきました。



## [お知らせ]ふるってご参加ください！

### ●ラオスのこども勉強会 第2回

「ラオスの料理。みんなで作って、いただきま～す！」  
ハーブをいかしヘルシー＆ちょっぴりスパイシーなラオス料理  
は夏にぴったり。東京在住のラオス人のチッタさんを料理講師に迎え、みんなで作って、おいしくいただきましょう。  
日時／6月12日（土）11:00～14:30（時間は予定）  
会場：馬込文化センター 調理室（予定）

### ●ラオス・フェスティバル

民族舞踊、ラオスと日本のアーティストによるコンサート、ラオス料理、民芸品・小物の販売、伝統文化紹介と体験など盛りだくさんのイベントです。当会はラオス語の本、民芸品

の販売を予定しています。

日時：5月22日（土）、23日（日）10:00～19:00

場所：代々木公園イベント広場

### ●大森・大井夢フェア

大森駅周辺の商店街が主催。羽田空港の再国際化にちなんで様々な国の文化に触れられるイベントです。

日時：5月8日（土）、9日（日）10:00～17:00

場所：大森駅周辺 当会も出店します。

\*以上のイベントについては、詳細はホームページでお知らせ致します。

## <ラオス事務所の動き>

### 11月

11/10～12 ヴィエンチャン県「図書活用強化セミナー」

11/16～20 教員養成校「ラオス語指導者育成・マニュアル作成セミナー」

11/21～29 フアパン県「HA新規開設&フォロー」

### 12月

12/5～6 ポリカムCCC開設、ブックフェスティバル

12/7～8 ポリカムサイ県「図書活用強化セミナー」

12/11 事業振り返り及び事業計画に関する会議\*

12/14～23 ルアンナムター県「HA新規開設&フォロー」

### 1月

1/5～8 教員養成校「ラオス語指導者育成セミナー」

1/13～20 ヴィエンチャン都「図書活用強化セミナー」

1/15 JICA教育セクターミーティング出席

### 2月

2/3～10 インド出張（IBBY朝日国際児童図書普及賞関連会議）（スッカパンサー）

2/7～2/10 サイヤブリ県「HA新規開設」ヴィエンチャン県「HAフォロー」

2/7・2/11 学習院女子大学ラオス研修 受入

2/11～12 ヴィエンチャン県「学校巡回訪問」

2/12 読書推進NGO連絡会議

2/16～3/2 サワンナケート県・チャムパサック県・アタプー県「HA新規開設&フォロー」

2/24～26 図書館活動に関するワークショップ参加（チャンシー・カンピー）

2/27 名古屋学院大学 スタディーツアー受入

### 3月

3/4～5 ドンカムサン教員養成校にて学生対象に研修

3/12～14 ブックフェスティバル

3/16～19 ヴィエンチャン県「学校巡回訪問」

3/21～3/28 ルアンパバーン県・サイヤブリ県「学校巡回訪問・HAフォロー・CCC訪問」

3/31～4/2 ポリカムサイ県「学校巡回訪問・HAフォロー・CCC訪問」※HA=ハックアーン（学校図書室）CCC=子ども文化センター

## 国内の活動・事務局より

2009年11月～2010年3月

### <東京事務所の動き>

#### 11月

11/5 富士ゼロックス古本市

11/7～8 OTAふれあいフェスタ出店

11/12 山形県新庄市立新庄中学校 事務所訪問

11/15 運営会議

11/21 第1回 理事会

#### 12月

12/3 武蔵村山市立第一中学校 事務所訪問

12/9～15 ラオスの織物展（コトブキDIセンター）

12/20 運営会議

#### 12月

1/9 運営会議

1/25 東京都立杉並総合高校講師派遣（開発教育支援事業）（深山）

2/4～6 インド出張（IBBY朝日国際児童図書普及賞関連会議）（チャンタソン）

2/13 第1回勉強会「すみからすみまでラオスを旅して」（川口正志さん）

2/27 第2回 理事会

#### 3月

3/5 JANIC MDGsカウントダウンキャンペーん説明会

3/7～3/9 福岡出張（福岡西ロータリークラブ、NGO福岡ネットワーク講演会）（野口、深山）

3/12 東京国税局国税実査官 事務所訪問（認定NPO審査）

3/13 運営会議

3/14 ifOTA講演会（野口）

3/22～4/7 ラオス出張（中期計画策定会議、現場視察）（チャンタソン、森、野口、深山、赤井）